

2002年度
講義計画

桃山学院大学

新刊
御
覽
本

新刊
御
覽
本

新刊
御
覽
本

新刊
御
覽
本

新刊
御
覽
本

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文化人類学		秋学期集中	4 単位	小 池 誠
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
文化人類学は、自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住む様々な人々の文化的多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチと方法論を通して異文化にたいする理解を深めることを目的とする。様々な民族の多様性だけでなく、多様性を通してあらわれてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく異なる習慣や社会のあり方をたんに珍しいものとか、遅れたものと見なすのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化人類学の視点を理解してもらいたい。また、今日大きな話題となっている多文化社会と民族問題についても、より身近な問題として考えてもらいたい。受講者の関心と理解を深めるため、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。		1 文化人類学とは何か？ 2 人類の文化と言語（文化とは何か、人類の言語はどんな役割をもつのか？） 3 家族と結婚の多様性（私たちにとって家族とは、結婚とは何か？そして異文化では） 4 政治と経済（どうやって人は力をもつか、交換はどんな意味をもつのか？） 5 国家と民族（民族とは何か、なぜ民族は対立し憎しみあうようになるのか？） 6 宗教と儀礼（人は何を信じ、何を願うのか？）		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席と試験の成績を基本にして評価する。また、必要に応じて提出を求めるレポートの成績も加味する。		講義のなかで必要に応じて紹介する。		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域文化概論		春学期集中	4 単位	今 澤 浩 二
〔講義概要・学習目標〕 「地域文化」とは何なのか、それはどのように見ていけばよいのか。 また、そもそも「文化」とは何なのか。 本講では、こうした問題について、西アジアに興ったイスラーム世界、特にトルコという地域を題材に取り上げて考察し、ひとつの地域の文化を見る上での視点を考えたい。	〔講義計画〕 1. イントロダクション 2. 自然—西アジアの自然と地理— 3. 宗教—イスラームとは何か— 4. 民族と生活習慣 5. 歴史—トルコ民族史を中心に— 6. 社会—異教徒・異文化との共存の社会— 7. 現代の諸問題—民族・宗教紛争—			
〔成績評価の方法〕 試験、時々的小テスト。	〔参考文献〕 講義中に随時、紹介する。			
〔教科書〕 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化概論	01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	小 林 信 彦
〔講義概要・学習目標〕 目に見える文化事象は異文化圏から取り入れるのが容易であるが、人間の生き方を根本のところで規制する原則は、簡単に取り替えることができない。古代の日本に仏教が伝わったと言われるが、はたして日本人は従来の世界観に替えて異文化圏の世界観を採用したのであろうか。 この授業では仏教に対処した古代日本人の発言に着目し、これをインド文献の記述と比較することによって、日本文化とインド文化の決定的な違いを指摘する。	〔講義計画〕 導入部分では課題を特に限定して、「フックになるプロセス」から始める。仏教でフックになるには厳しい条件を満たさなければならない。限りなく生まれ変わって努力を重ねなければならない。ところが日本では、死ねば誰でも「佛」になると考えられている。このような違いが起こったのは、インド文化と日本文化との間に越えられないギャップがあったからである。 一度にあまり多くの事象を取り上げると不要な混乱が生じる恐れがあるので、最初は一点を深く掘り下げて、それに関連する多くの文化事象に触れ、「狭い問題を取り上げて広い知識を与える」という方法で授業の成果を上げたい。			
〔成績評価の方法〕 ① 授業中の発言を特に評価する。 ② 一つの課題を終えるごとに小試験を行い、折に触れて授業内容の要約を提出させる。 ③ 学期の中間と学期末に試験を行う。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 教室で扱う資料はそのつど複写で配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	大 石 正 晴
〔講義概要・学習目標〕 言語学は、「言語とは何か」とか、「言語はどのように働くか」という根本的な問いに答えようとする学問である。もう少し厳密に言えば、言語の本質・構造・他の文化現象との関連・および言語の歴史的变化の研究等を目的とするものである。 人間の生活に占める言語の役割は極めて重要であることは言うまでもないが、特に、人間の知的活動のすべては、根源的には言語と密接に結びついているといえる。従って、言語という特別の信号体系を、それを構成する諸要素、即ち、音・語・文・意味等を体系的に明らかにし理解しておくことは、言語使用の面から見ても極めて意義のあることである。 本講義では次のような問題点も含めてみていくことにする。即ち、『すべての言語に共通する特徴は何か』、『人間の言語と動物の伝達にはどのような違いがあるか』、『子供はどのようにして話すことを学ぶか』、『文字のない言語をどのように記録し、分析するか』、『言葉はなぜ変化するか』、『社会構造の違いがどのように言語に反映するか』などである。 言語の解明を通して人間や文化の理解にまで到達できればと願っている。	〔講義計画〕 次の諸問題について考察する。 ・ 言語とは何か ・ 言語研究の概観 ・ 言語の内部構造—音・語・文・意味等 ・ 言語使用の問題—聞き手がどのようにして、話し手が意図した意味に到達するか・話し手や書き手が個々の文を首尾一貫してまとまりをなす全体にまとめあげる時に使うさまざまな手段等 ・ 言語の外側をとりまくもの—言語と社会・言語と心・言語の変化・普遍文法等			
〔成績評価の方法〕 試験と講義への出席度による。	〔参考文献〕 「現代の言語学」（金星堂）他、適宜紹介する。			
〔教科書〕 改定新版 「入門言語学」 ジーン・エイチソン 著 田中晴美／田中幸子／若月 剛 訳 金星堂 （¥2,600＋税）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		春学期集中	4 単位	有川康二
[講義概要・学習目標] 日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけて「なゝ」にしても発音できないの？「大型」は「おおがた」。でも、何故「大風」は「おおがぜ」と言わないの？「病気の人」とは言うけど、何故「元気の人」とは言わないの？「猫が金魚が食べた」は変だけど、この時、頭の中の中ではどんなことが起こっているの？ 日本語話者なら誰でも日本語を自由に「使える」が、その仕組みを体系的に「説明」できない。（誰でも脳味噌は使えるが、そのメカニズムは説明できない。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳言語野のメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象である。 日本語を三つの視点から概論する。（１）生物言語学の視点＝自然が創り上げた脳の創発的自己組織化の過程で出現した自然言語の一般的性質とは何か？（２）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって日本語の客観的な説明とは何か？（３）哲学的視点＝私とは何者なのか？私はこの宇宙の中で何をしながら死を待っているのか？（こんなことは大学とお寺でしか言われないので我慢してください。）	[講義計画] （１）音特徴情報処理のインターフェースにおける原理とメカニズム（簡単に言えば「音」の問題） （２）文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至る過程から音特徴が剥ぎ取られた後、音特徴情報処理インターフェースに至る早い段階における原理とメカニズム（簡単に言えば「単語」の問題） （３）文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至るまでの構造型成の過程における原理とメカニズム（簡単に言えば「文」の問題）			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 井上和子・原田かつ子・阿部泰明『生成言語学入門』大修館書店			
[教科書] 上山あゆみ『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』（くろしお出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 文 化 研 究 (ケガレ・差別と日本文化)		秋学期集中	4 単位	寺 木 伸 明
[講義概要・学習目標] 本講義では、ケガレ・差別の視点から日本文化史全体を考えてみたい。日本文化史を分析する切り口は多種多様で、すでに多くの優れた研究があるが、ケガレ・差別を切り口とした研究は少なく、今後の研究にまっところが多い。 ところが、日本文化の底流の一つにこのケガレ・差別の問題が強い流れとして存在してきたし、今も存在している。たとえば、女人禁制の問題がそうである。いまだに大相撲の土俵の上に女性があがることは許されていない。大峰山などの修験道道場となっている山々への女性の登山も認められていない。こうした現象の背景には、日本文化の地下伏流として流れているケガレ・差別の問題が横たわっていると考えられている。 講義では、このケガレ・差別がどのようにして日本社会に発生し、どのように変遷を遂げ、日本文化とどのような関係をもってきたのかを、探っていくと考えている。	[講義計画] はじめに——ケガレ・差別とは何か 1 古代社会におけるケガレとキヨメ 2 中世仏教とケガレと差別 ——旧仏教と鎌倉新仏教との比較—— 3 中世文化とケガレ・差別を蒙っていた人々 ——能楽・傀儡子・石庭作り—— 4 近世身分制社会とケガレ・差別 ——部落差別・歌舞伎と差別—— 5 近世の知識人にみるケガレと差別 6 近世仏教とケガレと差別 7 近代国民国家とケガレと差別 ——部落差別・女性差別・ハンセン病患者差別—— 8 現代文化とケガレ・差別を考える			
[成績評価の方法] 学期末に実施する試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。	[参考文献] 原田信男『歴史のなかの米と肉——食物・天皇・差別』平凡社 山本幸司『穢と大穢』平凡社 柏原祐和泉『仏教と部落差別——その歴史と今日——』部落解放研究所			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化研究 日本語社会 を分析する		春学期集中	4 単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
私たちの回りにあまりにも当然のごとくある「日本語」と呼ばれることば。食堂で友人とおしゃべりするときも、よく分からないむずかしい講義を聞くときも、締め切りに追われながらレポートを書き上げるときも、気軽に交わす携帯メールを読んだり書いたりするときも、私たちの日々の生活や社会活動はすべて日本語によって構成されている。それにしてはその「日本語」がないがしろにされてきたという感否めない。最近はその反動か、「日本語」に関する関心が高まり、一般人向けの関連書籍も数多く出回るようになってきた。本講では具体的な言語資料や論考を参考にしながら、日本語をさまざまな側面から考察する。		取り上げるテーマ（予定：順不同） ・「外国人」の使う日本語ー日本語の意外なパワー ・「国語」と「方言」のあいだ ・いまどきの「言文一致」 ・日本語表記の複雑さー漢字はむずかしい？ ・敬語は減びる？ ・「男」のことばと「女」のことば		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席を重視する。学期中に二回ほどテーマを決めて書くレポートと学期末に行う試験を合わせて評価する。		井上史雄『日本語は生き残れるか？』（ＰＨＰ研究所、2001年） 金田一春彦『ホンモノの日本語を話していますか？』（角川書店、2001年） 真田信治『方言は絶滅するのか』（ＰＨＰ研究所、2001年） 高島俊男『漢字と日本人』（文藝春秋、2001年） 小森陽一『小森陽一、ニホン語に会う』（大修館書店、2000年） 加藤秀俊、熊倉功夫『外国語になった日本語の事典』（岩波書店、1999年）		
[教科書]				
特に指定はしない。必要な資料は教員が用意、配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化研究（柳田国男『山人考』批判）		秋学期集中	4 単位	梅 山 秀 幸
【講義概要・学習目標】 今世紀初頭、柳田国男は二度にわたって、かなりの長期の岐阜県の調査旅行を行っており、その成果は『山の人生』および『毛坊主考』といった初期の作品の中に取り入れられている。その足跡をたどりつつ、柳田国男の叙述を読みなおすとき、かなりの「創作」といっていいものが目立つ。たとえば、『山の人生』の冒頭の「西美濃」の山奥の子ども殺しは、その実行者の後年の告白がたまたま残されていて、それとつき合わせると、実に出鱈目である。また、飛騨白川郷での農家の軒先の見聞から、『毛坊主考』は書き始められ、浄土真宗の揺籃期について論じられているのだが、白川郷は江戸初期に高山に移った照蓮寺が勢力をふるった真宗王国だったのである。柳田国男の「勇み足」の意味を考えながら、山国の人々の精神生活に思いを致したい。	【講義計画】 1、『秋風帖』を読む 2、『越前美濃紀行』を読む 3、『山の人生』 4、「新四郎さの告白」 5、『毛坊主考』 6、一向一揆 真宗の発展について 7、飛騨というところ 8、飛騨の真宗 『岷江記』という書物 9、山国の生活			
【成績評価の方法】 レポートを課す	【参考文献】 『柳田国男全集』（筑摩文庫）			
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（韓国・朝鮮文化）		秋学期集中	4 単位	青 野 正 明
〔講義概要・学習目標〕 近年、日本と韓国との交流がさまざまな分野で盛んになってきた。そのため、現代韓国に関心をもつ人たちが急激に増えている。 そのような状況を踏まえて、この授業では現代韓国の理解に重点を置きながら、韓国・朝鮮文化一般を概説していく。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、視覚資料の多い教科書を用いながら学ぶことになる。 知識として知ること必要だが、異文化の特質を見いだし理解するための視座や学問的技術も併せて修得することを目指したい。	〔講義計画〕 歴史 地理 宗教 言語 社会制度 風俗 集落と住居 衣服 料理と酒 美術 舞踊・演劇 音楽 北朝鮮事情 また、在日韓朝鮮人の人権、日韓の歴史教科書問題や、韓国での日本の大衆文化「開放」についても講義する予定である。			
〔成績評価の方法〕 出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。	〔参考文献〕 必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布し、ビデオ・写真等も見る予定。			
〔教科書〕 金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社、1993年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究 日本からみた漢字文化圏		秋学期集中	4 単位	片 倉 穰
〔講義概要・学習目標〕 この講義では、日本からみた漢字文化圏について歴史的に考察する。漢字は、いわゆる東アジアを通じて最重要な文字であり、中国から朝鮮・日本・ベトナムなどに伝わり、それぞれの地域で多様な展開を示し、かつ共通語の役割を果たした。漢字はまた、儒教・律令制などとともに東アジアを一つの文化圏とする重要な要素でもあった。日本からみた漢字文化圏のさまざまな歴史と文化の諸相を、近年の研究成果を踏まえて明らかにし、あわせて漢字以外の文字を使用してきたアジア他地域などとの文化的差異を検討したいと思う。 アジアを構成する民族・国家を理解し、民族や国家をこえた歴史と文化の世界を認識する一助となれば幸いである。	〔講義計画〕 はじめに：この講義の目的・趣旨 < 1 部 > 予備的考察 (1) 世界の文字のなかの漢字 (2) アジアの漢字文化圏 < 2 部 > 漢字による外交・国際関係 (1) 東アジア冊封関係 (2) 国書 (3) 通訳（通事） < 3 部 > 漢字による文化交流 (1) 漢詩の交換と筆談（朝鮮通信使その他） (2) 漢字の印刷文化 (3) 漢字文化圏の仏教 (4) 漂流民・漂着民と漢字 < 4 部 > 漢字文化圏に関する諸問題 (1) 漢字文化圏のキリスト教受容 (2) 漢字文化圏と喫茶文化 (3) 漢字文化圏のなかの礼・倫理 < 5 部 > 漢字の現在・未来 (1) アジア諸国の漢字政策 (2) 東南アジア華人と漢字文化 おわりに：この講義のまとめと反省			
〔成績評価の方法〕 出席状況および定期試験により評価する。	〔参考文献〕 和田正彦『近現代の東南アジア』放送大学教育振興会、1991 田中健夫『前近代の国際交流と外交文書』吉川弘文館、1996 布目潮風『中国茶文化と日本』汲古書院、1998			
〔教科書〕 使用しない。プリントを配布して授業をすすめる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（インドネシアの文化）		秋学期集中	4 単位	小 池 誠
〔講義概要・学習目標〕 講義では、東南アジアのインドネシアを取り上げ、古代の歴史から始めて現代のテレビ番組とポップスまで、文化の色々な面を理解してもらいたい。インドネシアの地域的多様性に注目して、インドネシアの様々な側面を取り上げたい。また、激動するインドネシアの政治状況にも配慮して、授業を進めていきたい。講義のなかでは、できる限りビデオを教材として使って、多角的にインドネシアの文化を理解してもらいたい。	〔講義計画〕 1 インドネシアとは 2 インドネシアの歴史 3 インドネシア語 4 宗教と社会 5 衣装 6 住まい 7 ジャワの伝統芸能 8 スンバの伝統文化 9 ポピュラー文化 10 テレビ番組 11 講義のまとめ			
〔成績評価の方法〕 講義中に提出してもらう小レポートと、学期末に実施する試験の成績を総合的に評価する。	〔参考文献〕 講義のなかで必要にあわせて紹介する。			
〔教科書〕 小池誠、『インドネシア：島々に織りこまれた歴史と文化』（三修社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（東南アジアの生態と文化）		秋学期集中	4 単位	深 見 純 生
〔講義概要・学習目標〕 東南アジアの生活環境と文化の多様なありさまを紹介する。 自然環境とこれに適応した生態にはじまって、東南アジアの文化を幅広く紹介する。文化の表層ではなくその基礎にあるものを見きわめたい。 東南アジアははてしなく複雑多様だけれども、それをできるだけまとめた形で捉えなおしてみる。そうすることで、東南アジアという一つのまとまりが見えてくることを期待し、さらに、それが日本とよく似ていること、似ているけれどやはり異なることもわかってほしい。 なお、東南アジア全域を対象とするがインドネシアなど島々の世界が中心になる。またビデオ資料を用いる。	〔講義計画〕 生活環境 ― 島の熱帯の生態学。環境と生態 文化の多様性 ― ①民族分布、宗教分布の複雑さ ②精霊信仰と「宗教」のはざままで ③森と海に生きる。都会に生きる ④日本との共通性 東南アジア文化史二千年 ― 基層文化から国民文化まで。 文化遺産 ― 主な遺跡			
〔成績評価の方法〕 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。	〔参考文献〕 綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたい東南アジア』弘文堂 1994 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997 上智大学アジア文化研究所編『入門東南アジア研究』めこん 1992			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（フランス文化）		秋学期集中	4 単位	赤 瀬 雅 子
〔講義概要・学習目標〕 交通・通信手段の発達によって、ヨーロッパは近くなったとはいふものの、やはりわが国からは遙かに遠い存在である。そしてその遠い存在であるヨーロッパそのものは多様である。また多様でありながら、たしかにヨーロッパというひとつの文化圏を持ってもいるのである。 西欧中の西欧といえるフランスの文化は、確かに世界中から憧憬の眼を持って見られる文化のひとつであるが、時にアングロ・サクソンの文化圏からは、揶揄の対象としても見られる。 フランス文化の本質は、重厚で農民的なものである。もちろん厚い信仰心が文化の基層に在ることも忘れてはならない。そしてもっとも重要なことは、絶えず世界のあらゆる文化を見つめ、その文化に憧憬を持ち、その文化を自己のものとして取り込む独特の才能であろう。このフランス文化の他の追従を許さないコスモポリタンな性格を考察する。 なお、つねに比較文化的な視点をもって考えることの重要性おも考慮してゆく。	〔講義計画〕 ヨーロッパ文化としてひとつに括ることのできる文化の特質とは何かを先ず考える。次いでフランス文化について学ぶが、特にこの文化の根底に在る厚い信仰の問題、農民的な精神に触れたい。同時に都会中の都会であるパリの文化を考え、そのコスモポリタンな文化の受容の姿勢を考える。			
〔成績評価の方法〕 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。	〔参考文献〕 富田仁著『パリ点描』（駿河台出版社）			
〔教科書〕 小林 善彦著『フランス学入門』（白水社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（ロシア文化）		春学期集中	4 単位	国 松 夏 紀
〔講義概要・学習目標〕 ヨーロッパ vs. アジア、後進性 vs. 先進性、強固な規範 vs. 激しい逸脱、聖 vs. 俗、限らない夢想 vs. 現実主義、... 様々な局面において相矛盾する要因をはらむロシアとその文化を歴史的に検討する。 おそらくは、極めて図式的ではあるが、これら矛盾の「止揚」こそがロシアとその文化なのである。さらに一般的にも、「文化」とは様々な局面での「接触」における対立解消装置・機能であろうとの見通しのもと、講義をすすめる。	〔講義計画〕 下記参考文献の枠組みを借用し、 I. 背景 10世紀～13世紀 II. 接触 14世紀初期～17世紀初期 III. 教会分裂の世紀 17世紀中期～18世紀中期 IV. 貴族文化の世紀 18世紀半ばから19世紀半ば V. 新しき岸辺へ 19世紀後半 VI. 不安定な巨像 20世紀 ＊ 各項につき3～4講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得る。また、下記参考文献の枠組みを越える範囲、とりわけソ連崩壊後に関しては、講義において補足する。			
〔成績評価の方法〕 春学期末レポートにより評価します。1回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。	〔参考文献〕 ジョージ・H・ピリントン著(藤野幸雄訳) 『聖像画と手斧 ロシア文化史試論』 勉誠出版株式会社 2000年5月刊（原著は1966年刊）			
〔教科書〕 特に定めません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（イタリア人の歴史）		春学期集中	4 単位	米 山 喜 晟
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
この授業ではイタリアの家族の歴史についてさまざまな角度から考えたい。 Ⅰ. まず古代末期から中世について考える。古代ローマの家父長権が絶対的だった共和制時代から、風紀が退廃した帝政末期にかけてのローマの家族の変化、やがてそのすきをついて侵入したゲルマン民族一般の家族、および特にイタリアを支配したロンゴバルド族の家族などについて、いくつかの文献を紹介しつつ大体のイメージを把握する。 Ⅱ. つづいて中世からルネサンスにかけてのイタリア人の家族はどうだったかを、いくつかの文献を紹介しつつ、考察する。特にルネサンス文化の基盤となったフィレンツェの家族については、同時代の記録と、今日の優れた研究をあわせて紹介しておきたい。 Ⅲ. イタリアは16世紀以後、再封建化という現象を体験した。しかし北部と南部ではかなり差があったらしい。そうした変化や地方差などを、主に現代の研究書を通して観察する。 Ⅳ. 実は現代こそイタリアの家族にとって極めて大きな変革期なのである。カトリック教会の抵抗も空しく、離婚が合法化されたのは、ついここ数十年のことに過ぎない。少子化や高齢化も日本より先に進んでいた。そうした現象について、ごく簡単に概観する。	私の能力や、これまでに得た知識では、左記の概要の内で、第二の項目を中心に授業を進めざるをえない。だから、かなりアンバランスなものになることを、あらかじめお断りしておかねばならない。 Ⅰ. ローマ法、タキトゥス、ロンゴバルド法その他見られる家族について、2～3時間。 Ⅱ. 中世からルネサンスにかけてのイタリアの家族について、まず同時代の文献について、約7～8時間。 すぐれた研究書の紹介、3～4時間。 Ⅲ. 近世から近代イタリアの家族。 すぐれた研究書の内容の紹介、3～4時間。 Ⅳ. 現代イタリアの家族について。 いくつかの研究書や文献の紹介、3～4時間。 それ以外に「残酷な母」、「チナスペーオ」、「文学や民話の中の家族」などさまざまな話題についても2～3時間考えてみたい。			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
出席点と、レポートを何回か提出してもらって、その出来栄で判断する。プリントを渡してもらい、討論に参加してもらうので、特に出席点を重視したい。	D. Herlihy e C. Clapish Zuber: <u>I Toscani e le loro famiglie</u> M. Bargagli <u>Sotto lo stesso tetto</u>			
【教科書】				
プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカ文化研究（革命・開拓・宗教） （旧アメリカ文化研究）		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
〔講義概要・学習目標〕 何もなしに見えていた新大陸にヨーロッパから移民たちが渡った時から、せいぜい300年くらいの間にヨーロッパ諸国に伍して世界をリードする超大国を作り上げたアメリカ人とは一体何なのか。アメリカ人はどのようにしてアメリカ人になったのか。そのエネルギーの本質はどのようなものなのか。アメリカには文化というにふさわしいものがあるのか。このような問題を革命・開拓・宗教の三つのテーマに絞って考えながら Henry B. Parkes の <i>The American Experience</i> の著書を読み、これを補足し、批判し、さらに解説を加えながら講義を進める。前期の終わり頃にはゲスト講師を招待、アメリカの民謡やフォークソングについての講義を聴く機会を持ちたいと考えている。	〔講義計画〕 1-7 アメリカ革命と独立 8-12 西部開拓 13-23 宗教：アメリカ文化の根底 24 まとめ			
〔成績評価の方法〕 クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。 期末試験またはレポート。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 Henry B. Parkes 著 <i>The American Experience</i> 研究社出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化史		春学期集中	4 単位	梅 山 秀 幸
【講義概要・学習目標】 未曾有の不況に見回れ、わが世の春を謳歌した経済大国の「日本」も存亡の危機に瀕するとともに、かつて自信満々に語られた日本論も影を潜めたか ようである。日本人の自己認識としての日本文化論という、学問のよって 立つ基盤そのものも検討しなおさなければならないだろう。日本列島に住ん で、生活しているのはなにも日本人だけとは限らない。出自を異にしながら もこの日本列島に住んだ人々の手によって創造されたさまざまな文化事象 を、時間の縦の系列の視点に空間の横の系列の視点を交錯させながら見てい きたい。また、鏡に写すことによってしか自己の姿は把握できないというの も真実である。天下統一をなしえた豊臣秀吉は日本では英雄であっても、朝 鮮半島では侵略者として五百年にも及ぶ「ハン（恨）」の対象であり、同じ く明治の元勲の伊藤博文は盗賊日本の代表者である。「脱亜論」を書いた福 沢諭吉をはたしてどう考えるべきなのであろうか。		【講義計画】 1、朝鮮半島の文化について 2、沖縄の文化について 3、アイヌの文化について 4、柳田国男の山人論 5、折口信夫のマレビト論 6、『古事記』・『日本書紀』の神話 7、『三国史記』・『三国遺事』の神話 8、“みやび”から“もののあはれ”へ 9、“ハン”と“もののあはれ” 10、“大和魂”について 11、『於干野譚』の語る文禄・慶長の役 12、福沢諭吉の「脱亜論」		
【成績評価の方法】 レポートによる		【参考文献】 金達寿『朝鮮』 外間守善『沖縄の歴史と文化』 柳田国男『山の生活』・『遠野物語』 折口信夫『古代研究』 和辻哲郎『日本精神史研究』 『古事記』・『日本書紀』（岩波古典文学大系）など その他、授業時に述べる。		
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2 単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] 20 世紀は戦争の世紀であったといわれるが、わが国の歴史をみても、20 世紀の前半は特に「戦争の時代」との様相を呈している。このような戦争の時代に、「傷痍軍人」とよばれた戦争がつくりだす障害者があらわれる。この「傷痍軍人」をキーワードにして、戦争の歴史をみていくと、何が見えてくるのか。それがこの講義のテーマである。	[講義計画] 戦争で障害者になるというのは、いったい、何を意味していたのか。それを歴史的にみていくと、そのようなことになるのか。それは人びとのなかに何を残したのか、また、何も残さなかったとすれば、それは何故なのか。そうしたことを考える講義にしたいと思う。			
[成績評価の方法] 各講義ごとの各学生の受けとめ方を大切にしたい。それゆえ、出席重視を前提とした評価となる。	[参考文献] 必要なときに適宜紹介します。			
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民	0 1 0 2	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	山 川 偉 也
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
この講義は、「世界市民」概念形成の経緯とその歴史をたどることを通じて、学生諸君に生じた「世界市民」とは何であるかを学習し探究してもらうことを意図している。「世界市民」という言葉は、ギリシア語の「コスモポリテス」に由来している。その言葉を最初に使ったのは、シノペのディオゲネスという人物である。その伝統はやがてストアの四海同胞思想を培い、ヨーロッパのヒューマンズムの流れを形成する重要な要因となっていく。この講義では、こうした「世界市民」概念の起原と歴史について総論的展望を与え、「あるべき世界市民」について考えてもらう契機としたい。		資料を読むことと討論することを交互に繰り返すことを通じて、学生の主体的学習と「世界市民」たることの理解を深めていく。		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
授業中に行なう小テストの結果と学期末試験の結果を総合的に判定して行なうものとする。				
[教科書]				
教科書なし。資料はコピーして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		春学期	2単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] 「障害者」というのは、どのような人たちのことか。そんなことを理解するために、いろいろな「種類」や「程度」の障害者たちのことを、できるかぎり、具体的に考えていくことにしたい。	[講義計画] 障害者というのは、ごくおおざっぱにいうと、身体障害、知的障害、精神障害の三にわけることができるが、現実には、もっと、もっと多様で、複雑な存在でもある。 そこで、そうした複雑さをできるかぎり年頭似おきつつ、いろいろなタイプの障害者の相違点と共通点を理解してもらえようようにしたい。			
[成績評価の方法] 出席点を重視することと、講義への誠実な参加態度を大切に評価したい。	[参考文献] 必要なときに適宜紹介します。			
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2単位	佐 藤 啓 子
[講義概要・学習目標] 家族の過去の姿から未来への進化と併せて、個人の過去（例えば胎児の「人権」から高齢者に至るまでの、いわば足元の人権問題）を、家族を基点に取り上げる。 人権問題として捉えることのできる問題意識と法的思考を身につけることを目標とする。	[講義計画] 命が誕生する前の父母の出会いから成長老年期に至るまで。			
[成績評価の方法] 出席レポートによる（変更の可能性あり）	[参考文献] 『子どもの人権双書1 家庭の崩壊と子どもたち』（平湯 編 冊友書店） 『結婚と家族の 福島 著 岩波書店』			
[教科書] 特になし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2 単位	小早川 義 則
〔講義概要・学習目標〕 基本的人権の保障は民主主義の根幹にかかわる重要な問題であるが、その具体的な内容は必ずしも分明とはいえない。本講義は、世界における人権思想の流れを概観した後、ピューリタン思想に基づき建国された米国の憲法上の人権規定の発展過程と合衆国最高裁判例を中心に辿りつつ、日本での人権問題とのかわかりを明らかにし、人権の先進国アメリカでの動きを概括的にせよ把握することは、それ自体有益であることはもちろん、キリスト教精神に育まれた「世界市民」の養成という本学の精神にも通うことと思われる。	〔講義計画〕 講義形式になるが、二年間の米国(ニューヨーク)留学の経験を生かして、例えば今回の同時テロ多発の目標となった世界貿易センター周辺の地理的状況の説明など、留学体験ならでの生の体験をおりせながら、無味乾燥な内容に陥らないよう努力したい。一方通行人の講義を避け、学生諸君との相互のコミュニケーションを重視したいので、講義途中での積極的で活発な質問を歓迎する。			
〔成績評価の方法〕 平常点および期末試験を総合して評価する。	〔参考文献〕 藤倉皓一郎ほか編『英米判例百選(93版)』(別冊ジュリスト139号)(有斐閣、1996年)、その他適宜指示する。			
〔教科書〕 小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』(成文堂、2002年9月予定)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学		春学期集中	4 単位	深 澤 徹
〔講義概要・学習目標〕 「平安文学」と呼ばれる、「仮名文」を用いた文学テキストの流れを、平安中期から鎌倉初期にかけて、歴史的に跡づける。表意文字である漢字を用いて文章を書く「漢文」と違って、「仮名文」は、音声と文字とが一対一対応の表音文字である。漢字による「音・訓」語とは異なる、日本に土着の言葉（それは後に「やまとことば」と呼ばれるようになるが）の響きを、そのままに伝えてくれるこの仮名文字が、やがて東アジア文化圏の中での日本というナショナルな意識を培う基盤となる。そうした日本におけるナショナルな自己意識の芽生えは、すでに日本書紀や古事記にも見えるが、それが人々の間に広く浸透するのは、古今集の「仮名序」を始めとする。その展開のプロセスを、日記文学から源氏物語、さらに鎌倉期の物語評論書や擬古物語の出現を通して跡づける。		〔講義計画〕 第1講：東アジア文化圏の中における日本の地政学的位置 第2講：漢学アイデンティティによる知的ネットワークの形成 第3講：「やまとだまし」と「漢才」の文化的路線対立 第4講：言語ナショナリズムとしての古今集仮名序 第5講：自己アイデンティティを＜女＞に位置付けるオリエンタリズム的思考 第6講：仮名文を通じた自画像作成の試み 第7講：模倣され、搾取される＜女＞のテキスト		
〔成績評価の方法〕 出席状況、及び教場試験を2回行って、総合的に評価する。		〔参考文献〕		
〔教科書〕 鈴木日出男他編『古典入門』（筑摩書房・1800円）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学		秋学期集中	4単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] 歴史的な物の見方や考え方の習得をめざすことになる。そこで、具体的な講義においては、それぞれの歴史的場面における「誰が」「何時」「どこで」「何を」「どのように」したか。その結果、時代や社会の何がかわったのかを理解してもらう。	[講義計画] 具体的な講義の展開としては、日本の近代社会の成立過程、つまりは日本資本主義の形成過程を素材にして検討していくことになる。そして、この日本近代の形成過程の研究という一つの課題を前にして、いろいろな専門家によって、意見と理解が異なる理由と意味についても検討していくことにしたい。			
[成績評価の方法] 講義のテーマごとに小レポートを書いてもらうなどによって、受講学生の理解と参加を参考にしつつ評価することにした。	[参考文献] 必要なときに適宜紹介します。			
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学		春学期集中	4単位	清 水 真 一
[講義概要・学習目標] "言語"はわれわれにとってあまりにも身近なものであるから、日頃それについて真剣に思いをめぐらすこともそうたびたびあるわけではないだろう。本講では、まず人間言語と他の"コミュニケーション手段"との比較をおこなうことから話しを始める。さらに科学としての言語学を隣接分野とのかかわりにおいて眺めると同時に、そのなかで"言語"をできうるかぎり明示的なかたちで把握すべく議論をすすめたい。そのため若干の数理的準備をすることになる。しかる後、人間言語についての"文法"に関する複数個の考え方を受講生諸君に提示し、われわれにとって身近な"言語"なるものに対する関心を惹起せしめることを目指す。"言語"についてのより真剣な思索への導入となれば幸いである。	[講義計画] (1) "コミュニケーション"システムについての比較論的考察 (2) 言語学と隣接分野 (3) 若干の数理的準備 (4) 言語の"文法" (5) 人間言語と、"文法"についてのいくつかの考え方			
[成績評価の方法] 原則として、クイズ、定期試験に基づき総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書] プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想		春学期集中	4 単位	山 川 偉 也
[講義概要・学習目標] この講義は、ギリシアの哲学者たちの言葉を通じて、物事を根本的に考えるとはどういうことであるか、また、何故そのことが大切であるかを考えてもらうことを意図している。		[講義計画] ギリシアの哲学者たちの言葉と対決することを通じて、21世紀以降に生きる「思想」のあり方に向かう仕方での講義を行なう。		
[成績評価の方法] 授業中に行なう小テストと学期末試験の結果を総合的に判定して評価する。		[参考文献]		
[教科書] 『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学		秋学期集中	4 単位	明 石 吉 三
〔講義概要・学習目標〕 数学は文系系の学部では軽視されがちであり、学生諸君もそれを反映している傾向が顕著である。しかし、数学はあらゆる学問分野で共通に用いられ、対象の表現、分析に不可欠なものである。 本講義では、大学で必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする。 文系のための大学数学入門というべき内容を目指したい。高校時代に学んだ数学の範囲が、学生諸君によって大分違っているようである。 このことを考慮し、高校時代（中学時代？）の復習、再理解も行う。 講義ごとに練習問題を提示し、理解が深まるようにしたい。		〔講義計画〕 以下の内容を講義する予定であるが、進捗に応じ調整する。 (1) 集合 (2) 関数と写像 (3) グラフと方程式 (4) 関係 (5) 代数系 (6) 行列 (7) 連続性 (8) 微分、積分 (9) 確率		
〔成績評価の方法〕 出席及び試験の総合評価		〔参考文献〕 別途指示する。		
〔教科書〕 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義		秋学期集中	4 単位	高 橋 ひ と み
〔講義概要・学習目標〕 現代社会において重要な生活文化として取り入れられているスポーツの歴史を、政治や経済・社会環境との関連から学習する。 そして、体育・スポーツの歴史の変遷や活動の展開、ならびに、それぞれの時代や国の情勢や思想の背景を通して、今後、様々な様相を呈すると予想される「体育・スポーツ」の国際的動向を展望する上での基礎的な知識を得て欲しい。	〔講義計画〕 1. 古代の体育・スポーツ ①エジプト ②ギリシャ ③ローマ 2. 中世の体育・スポーツ 3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ 4. 近代の体育・スポーツ ①ドイツ ②イギリス ③スウェーデン ④フランス ⑤アメリカ ⑥日本 5. 現代の体育・スポーツ 6. オリンピック			
〔成績評価の方法〕 定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 高橋ひとみ（編著） 「体育・スポーツ史」 西日本法規出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義		春学期集中	4 単位	高 橋 ひ と み
〔講義概要・学習目標〕 高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達は一々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。 激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。 健康生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」・「休養」・「栄養」であるが、本講義においては、生涯を通じての「生活と運動」について、特に留意して学習する。	〔講義計画〕 1. 健康の概念 2. 健康な生活と環境 3. 休養と健康 4. 栄養と健康 5. 体育とスポーツおよびレクリエーション 6. 心身の発達と体育 7. 遊びと生活 8. 家庭体育 9. 学校体育 10. 社会体育 11. 青年期・壮年期の体育 12. 体力と体育の心理 13. 運動生理 14. 社会の変化と健康生活			
〔成績評価の方法〕 定期試験および小テストにより成績評価を行う。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 「健康科学概論」 緒方正名編著 高橋ひとみ他著 朝倉書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法入門		春学期	2単位	前 田 徹 生
〔講義概要・学習目標〕 憲法入門は、憲法学の学習を容易するため、「具体から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階となる。憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力点が置かれる。それにより、以後の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）を提供する。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることが企図されている。	〔講義計画〕 1) 憲法ガイダンス 2) 「三菱樹脂事件」「エホバの証人輸血拒否事件」 3) 「尊属殺重罰規定違憲判決」「非嫡出子の法定相続差別事件」 4) 「麹町中学内申書事件」「津地鎮祭訴訟」「愛媛玉串料訴訟」 5) 「チャトレイ事件」「北方ジャーナル事件」「徳島市公安条例事件」 6) 「小売市場事件」「薬事法違憲判決」「森林法共有林事件」 7) 「朝日訴訟」「堀木訴訟」「旭川学テ事件」 8) 「全通中郵事件」「東京都教祖事件」「全農林警職法事件」 9) 「砂川事件」「恵庭事件」「長沼事件」「百里基地訴訟」 10) 「警察予備隊違憲訴訟」「板まんだら事件」「長沼事件」「恵庭事件」 11) 「砂川事件」「苦米地事件」「警察法改正無効事件」			
〔成績評価の方法〕 2／3以上の出席を単位認定の基本条件とする。 定期試験と時々的小テストの結果を総合して成績評価の判断をおこなう。	〔参考文献〕 芦部信喜『憲法判例を読む』岩波書店 樋口陽一・山内敏弘・辻村みよ子『憲法判例を読みなおす』日本評論社 棟居・赤坂・松井・笹川・常本・市川『基本的人権の事件簿』有斐閣			
〔教科書〕 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ〔第4版〕』有斐閣 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ〔第4版〕』有斐閣				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法入門		春学期	2単位	佐 藤 啓 子
〔講義概要・学習目標〕 事例を中心に、民法の基本原理と構造を学ぶ。 基礎知識を「知る」ことも大事であるが、それと「身につける」ことで、以降の法学学習につなげたい。	〔講義計画〕 事例は教科書から採る予定である。 ただし順序は入れ変える。			
〔成績評価の方法〕 出席とテスト（予定、変更の可能性あり）	〔参考文献〕			
〔教科書〕 『現代民法入門』 （田沼ほか著 一橋出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
刑法入門		春学期	2 単位	小早川 義 則
〔講義概要・学習目標〕 法学基礎科目の履修は「具体から抽象へ」「素材(基本事例)の習得から理論的検討へ」という段階的学習が肝要であり、一年次開講の入門科目は、基本判例の徹底的修得が課題となる。本入門では、刑法学での基本概念の理解に不可欠な興味深い素材を紹介することにより、「罪と罰」の深淵と垣間見せつつ、「生きた法」の現実とその面白さを体得させたい。刑法学への知的関心とともに法律学への学習意欲の高まりが期待されるわけで、二年次以降の本格的な学習への円滑な導入の役割を果たしたいと考えている。	〔講義計画〕 講義にあわせて注の刑事裁判の傍聴を指示し、そのレポートの提出を義務付けながら、刑法学特有の世界へのスムーズな導入を図りたい。			
〔成績評価の方法〕 平常点および期末試験と総合して評価する。	〔参考文献〕 その都度、適宜指示する。			
〔教科書〕 渡辺 修 『刑事法入門——刑事裁判の傍聴——』(新世社、2000年)				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
法職オリエンテーション		秋学期	2 単位	前 田 徹 生
〔講義概要・学習目標〕 弁護士を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、政治家、地方公共団体の長、国内外で法務に携わるビジネスマン等々をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。それによって、これから学習する法の世界を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めることをねらいとしています。	〔講義計画〕 1) ガイダンス 2) ゲスト講師との交渉の結果、講義開始時点で、一覧表を配布する。			
〔成績評価の方法〕 3／4以上の出席を単位認定の基本条件とする。 時々課すレポート等を総合して成績評価の判断をおこなう。	〔参考文献〕 その都度紹介する。			
〔教科書〕 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基 礎 演 習	0 1	通 期	4 単位	軽 部 恵 子
〔演習概要・学習目標〕 人間の知的活動は「聞く、話す、読む、書く」の4つに集約できます。この演習では、相手の話を正確に理解し、自分の意見を説得力を持って相手に伝え、資料を様々な角度から分析し、自分の主張を論拠を示しながら理路整然と書くという、大学でのあらゆる勉強に必要な技術を学びます。 受講生は高校までの勉強方法にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心を持つことが求められます。主要新聞（朝日、読売、毎日、日経）のうちから少なくとも1紙を購読し、テレビのニュース番組を毎日見て下さい。また、各種ニュース雑誌の購読も奨励されます。 演習の詳細は受講生の人数やニーズ、希望に基づき決定しますが、基本的には右ページの項目を扱います。教材には受講生に親しみやすい素材が選定されます。	〔演習計画〕 1. 聞く：聞き手のマナー、ノートの取り方 2. 話す：発表、スピーチ、討論、ディベート 3. リサーチ：テーマ選定、図書館の使い方、インターネットの使い方、ホームページ実習 4. 読む：要旨の把握、資料の整理、資料の多角的な分析 5. 書く：テーマ選定、アウトラインの作成、アカデミックな表現方法、注の作成、参考文献リストの作成 6. グループ・プロジェクト：数人のグループで1つのテーマを研究し、発表します。 7. 個人発表：受講生が各自興味あるテーマを選定し、発表した後、レポートを作成します。 ＊ 演習では法律・国際問題にくわえて、日本の社会問題など、幅広いテーマを取り上げる予定です。			
〔成績評価の方法〕 出席状況、授業参加態度、提出物（内容・期限の遵守）、発表、レポートを総合的に評価する。なお、度重なる遅刻や欠席、提出物の遅延・未提出など、受講生としてふさわしくない者は、直ちに除籍処分の対象となる。	〔参考文献〕 ・猪口孝 『社会科学入門』（中央公論社 1985年） ・佐藤義彦他 『サイエンス・オブ・ロー事始め』（有斐閣 1998年） ・高嶋幸広 『相手の頭にスナリ入る説明上手になる本』（PHP研究所 1998年） ・藤沢晃治 『「分かりやすい表現」の技術』（講談社 1999年） ・W. ユーリー 『決定版ハーバード流“NO”と言わせない交渉術』（三笠書房 1995年） ・鷺田小彌太 『「自分の考え」整理法』（PHP研究所 1999年）			
〔教科書〕 ・鷺田小彌太 『入門 論文の書き方』（PHP研究所 1999年）〈生協にて一括購入〉				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	0 2	通 期	4 単位	清 原 泰 司
〔演習概要・学習目標〕 この基礎演習では、法学界、とりわけ民法学を専門的に勉強するための基礎的なトレーニングを行う。具体的には、図書館の利用方法、文献の収集方法、研究テーマの設定方法、レポート・レジュメの作成方法、論文の書き方を学ぶとともに、法律文献の講読を通じて議論する。また、模擬裁判、裁判所、弁護士・司法書士等の事務所の見学により、法学を勉強するためのモチベーションの向上を図る。さらに、共同研究を行うことを通じて、相互の意思疎通の方法を修得する。	〔演習計画〕 1 法学の勉強は、「条文に始まり、条文に終わる」といわれるほどです。したがって、まず、③の『六法』を用意してください。 2 法学の勉強は、文献を読み、活字に親しまなければなりません。その手始めとして、①の文献を講読します。その後、②の文献を講読します。そのほか、法律問題を素材とする新聞記事やテレビニュースを適宜とりあげ、議論します。これらの作業を通じて、法と社会の関係を学ぶとともに、文献の調べ方や報告の仕方を学びます。 3 その後、より専門的な民法学の学習を行う予定です。			
〔成績評価の方法〕 出席、発言、報告、レポートなど演習への貢献度を総合評価する。	〔参考文献〕 適宜、指示する。			
〔教科書〕 ①池田真朗ほか著『法の世界へ〔第2版〕』（有斐閣アルマ） ②平野鷹子著『私たちの消費者法〔二訂版〕』（法律文化社） ③『ポケット六法』又は『コンパクト六法』又は『デイリー六法』など				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	03	通 期	4 単位	小早川 義 則
[演習概要・学習目標] 基礎演習は、高校までの学習とは異なる大学教育への適応を容易にするための小人数編成によるアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、文献・資料等の検索方法、報告書・論文の書き方等の指導を中心とする。本演習は、刑事法の基礎演習であるため、裁判所や検察庁の見学も、できれば実現したい。またゼミ旅行等を通じてのゼミ生相互の親睦を図るとともに、大学生生活を円滑にするための側面的支援をも行う予定である。	[演習計画] まず法学部志望の動機および刑事法に関する本演習選択の理由等についての自己紹介のあと、それを文章化して提出させて講評する。その後、刑事事件に関するマスコミ報道——主に新聞記事——と素材にその内容を報告検討することによって徐々に刑事法の面白さ、深刻さを自覚させる。希望があれば初期の段階で、飲み会——未成年者はアルコール抜き(?)——なども実現したい。			
[成績評価の方法] 出席状況など平素点を総合して評価する。	[参考文献] 適宜指示する。			
[教科書] 渡辺修『刑事法入門——刑事裁判の風景』(新世社、2000年)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	04	通 期	4 単位	佐 藤 啓 子
[演習概要・学習目標] 大学で法律学を学ぶのに必要な基礎的技術の修得が目標である。 資料の収集・読解、テ-マの討論・報告がテ-マの中心となる。	[演習計画] 前期が資料の取り扱い方の基礎、後期はその応用編と共に討論等の技術力中心となる予定である。			
[成績評価の方法] 出席態度(レポート含む)の評価による。	[参考文献]			
[教科書] コンサイス判例六法(三省堂)2002年版 弥永真生『法律学習マニュアル(有斐閣)』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	05	通 期	4単位	鈴木 博 信
〔演習概要・学習目標〕 「憲法」を生々しく欧米社会の歴史をふたため、 何冊かの石炭やアメリカ憲法(世界最古の憲法)の原文などを 受講者に分けて報告してもらい、 それをもとに討議する時間をとす。 文庫や新聞検索など、図書館利用等についても、 時間をとる予定。		〔演習計画〕 1. 「議会」といって 2. 「民主主義」といって 3. 「コモン・センス」 4. 世界最古の「成文」憲法 5. 「憲法」はだれのためルールか？		
〔成績評価の方法〕 ① 年度末のレポート。 ② 必要に応じて課外レポート。出席の重視。とりわけ「報告」は重要。		〔参考文献〕 随時提示します。		
〔教科書〕 トマス・ペイン「コモン・センス」など、 数冊のテキストをかねて購入してもらうので、 図書費を支払う覚悟をうけて、受講してください。 購入テキストについては、開講後に解説のうえ、 全編について一斉に購入の予定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
基礎演習	06	通 期	4単位	瀧澤 仁唱
〔演習概要・学習目標〕 基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書、論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とし、さらに、事情が許せば、模擬裁判、裁判所・刑務所の見学、情報公開法(条例)利用による実践的学習等の体験教育を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモチベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。		〔演習計画〕 民法および社会保障・社会福祉法を中心に行うが、詳細は演習受講者の問題関心を中心に行う。目下、予定しているものは、以下のとおり(順不同)であるけれども学生の志望により、内容を変更する。		
〔成績評価の方法〕 出席、演習での役割およびレポートによる総合評価		〔参考文献〕 必要に応じて指示します。		
〔教科書〕 必要に応じて指示します。		1. 男女平等と法 2. 結婚と法 3. 環境と法 4. 労働と法 5. 社会保障と法 6. 介護と法 7. 年金と法 8. 人権と法		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	07	通 期	4 単位	辰 井 聡 子
〔演習概要・学習目標〕 大学で学ぶための基本的な技術・態度を身につけることを目標とするアカデミック・ガイダンスである。講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定の仕方、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文等の書き方、口頭での研究報告、文献購読等の技術を、実践を通じて修得する。模擬裁判の実施、裁判所・刑務所見学、情報公開法〔条例〕を利用した実践的学習等の体験学習も積極的に行う予定である。様々な体験や実践を通じて法学への意欲を高め、また少人数のクラスの中で教師・学生との適切な人間関係を形成していくことも目的の一つである。	〔演習計画〕 一人一人またはグループに分かれての研究報告およびディスカッション、ディベートが中心となる。見学、合宿等クラス外での活動も、受講者と相談の上積極的に行いたい。			
〔成績評価の方法〕 主として演習時間中の学習態度による。	〔参考文献〕 講義中に指示する。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	08	通 期	4 単位	本 間 法 之
〔演習概要・学習目標〕 基礎演習は、充実した大学生活を送るためのアカデミック・ガイダンスです。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るために、講義の受け方、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベートの技法、レポートや論文の書き方、研究報告の仕方等についての基礎的な指導を行います。また、事情が許せば、模擬裁判、裁判所等の見学、情報公開法〔条例〕利用による実践的学習等の体験も積んでもらおうと思っています。さらに、学生諸君相互の間に交流の絆が生まれるよう側面から支援をすると共に、学生生活や将来の進路等に関する相談・助言も行いたいと思っています。	〔演習計画〕 ① 法学部初年度生への助言 ② 法律学習へのアプローチ ③ 初学者のための法律文献案内 ④ 「六法」の常識 ⑤ 法律用語の常識 ⑥ 法律解釈の常識 ⑦ 判例学習の常識 ⑧ 国家試験と法律の学習 ⑨ 法律答案・レポートの書き方 その他、裁判所見学等			
〔成績評価の方法〕 平素の勉学状況（出席・課題等の達成度・受講態度）をもとに成績の評価をします。	〔参考文献〕 講義の際に、適宜紹介します。			
〔教科書〕 井口 茂 著 「法律学習入門―その作法と常識」（法学書院） なお、平成14年版の「六法」を常に携帯すること。「六法」の購入については、最初の講義の際に詳しく説明します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基 礎 演 習	0 9	通 期	4 単位	前田徹生
〔演習概要・学習目標〕 基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献講読等を中心とし、さらに、事情が許せば、裁判所・刑務所の見学、情報公開法〔条例〕利用による実践的学習等の体験教育を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモチベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。	〔演習計画〕 1) ゼミ・ゼミ・ガイダンス 2) ディベート 3) ディベート 4) ディベート 5) ディベート 6) ディベート 7) ノートの取り方 8) ノートの取り方 9) 研究テーマの見つけ方 と文献収集の方法 10) 文献探索ガイダンス 11) 原稿の書き方 (1) 12) 原稿の書き方 (2) 13) 原稿の書き方 (3) 14) 報告／討論 15) 報告／討論 16) 報告／討論 17) 報告／討論 18) 報告／討論 19) 報告／討論 20) 報告／討論			
〔成績評価の方法〕 単位認定の最低条件：三分の二以上の出席。報告を行うこと、レポートの提出。 成績は、これらの成果を総合して判定する。	〔参考文献〕 演習の中で必要に応じて提示する。			
〔教科書〕 特に、なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習 (社会学的想像力の育成)	10	通 期	4 単位	松村昌廣
〔演習概要・学習目標〕 この演習は大学で社会科学を専攻しようとする学生に自己啓発的な学習意欲を持たせ、学問的な方向付けをすることを目的とする。このため主として古典書を読ませながら、「人間生活と社会」について考察させ、現代社会の諸問題を初歩的に研究させる。 1 導入 1) 大学の意義と大学生活の仕方について 2) 社会学専攻の意義と当基礎演習の目的及び進め方について 3) 成績の評価方法 (出席・報告討論・レポート) 2 課題問題 1) 人間とは何か (人間観) 2) 人間社会とはどんな仕組みになっているのか (社会観) 3) 政治とはなにか (政治観) 4) 学問とは何をどうすることなのか (学問観)	〔演習計画〕 3 課題 1) カール・セーガン「コスモス」(朝日書店) 2) 時実利彦「心と脳の仕組み」(講談社学術文庫) 3) シューマン「国際政治(上巻)」(東大出版会) 4) プラトン「国家」(岩波文庫) 5) アリストテレス「エニコモコス倫理学」(岩波文庫) 6) 「孔子・孟子」の孔子の部分(中央公論社「世界の名著」) 7) 同書、孟子の部分 8) 「老子・荘子」の老子の部分(同上) 9) 同書、荘子の部分 10) ホッブス「リパイヤサン」(同上) 11) ルソー「社会契約論」(岩波文庫) 12) トクビル「アメリカの民主主義」(「世界の名著」) 13) 「ベンサム・ミリ」のベンサムの部分(同上) 14) 同書、ミルの部分 15) マルクス・エンゲルス「ドイツ・イデオロギー」(岩波文庫)			
〔成績評価の方法〕 1 出席 40% 2 レポート 60% (4点 X 15回) 評価の目安 80~100% A 70~79% B 60~69% C	〔参考文献〕			
〔教科書〕 各自、「講義計画」で指定してある書籍を準備しなさい。古典作品は様々な出版社から発売されている。内容を確認したうえで、指定の出版社以外のものでも何ら問題はあります。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	1 1	通 期	4 単位	吉 見 研 次
[演習概要・学習目標] この演習は下記テキストを使用し、内容的には民法学の基礎を理解することが主たる学習目標となる。 ところで、法学部の基礎演習は、大学での学習のためのアカデミック・ガイダンスという共通の性格を有している。この授業でも、学習を進めるさいの文献・資料の検索収集、学習成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告や討論等を実際に体験する中で、大学生に不可欠な種々の学習能力・技術を体得してもらうつもりである。学内の図書館や情報施設・機器の利用等も授業の一環として実施するほか、学外施設の見学等も考えたい。なお、受講学生の履修計画をはじめ学習全般に対する指導助言も行う予定である。	[演習計画] 春学期は毎回、主に数名の学生がテキストの内容を順次紹介報告する形式で授業を運営していくが、図書館等の見学に時間を割くこともある。小論文の書き方を指導した上で、実際に書く作業を課すこともある。別に討論の時間等も設けたいと考えている。 夏休み中および秋以降の課題として、複数の文献資料を読んだ上でレポートを書いてもらう予定である（レポートのテーマは各自が選択する）。秋学期の途中から、毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭で発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらうことになる。			
[成績評価の方法] 出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。	[参考文献] 授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 米倉 明『ブレップ民法（第三版増補版）』（弘文堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
基礎演習	1 2	通 期	4 単位	林 錫 璋
[演習概要・学習目標] 大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料などの検索、図書館利用の方法、文献収集の方法、デベート、報告書・論文の書き方、文献講読などを中心とした実践的学習を行う。	[演習計画] 1、宇奈月温泉事件 2、信義誠実の原則 3、意思能力なき者の行為 4、権利能力なき社団の成立要件 5、海の一部と私所有権 6、ホステスの保証 7、男女別定年制 8、動機の錯誤 9、詐欺による善意の第三者の登記要否 10、強迫による意思表示 11、民法94条2項の類推適用 12、民法109条と相手方の善意 13、代理ありと信じさせることと本人の無過失の必要性 14、民法110条の「第三者」 15、民法761条と表見代理 16、親権者の代理権濫用 17、他人の権利の処分と追認 18、自己の物の時効取得			
[成績評価の方法] リズ・ート・出席状況を加味して総合評価する。	[参考文献] 谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版 現代民法入門』（法律文化社） 判例 六法（三省堂）			
[教科書] 星野英一ほか編・別冊ジュリスト民法判例百選Ⅰ（第五版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																								
憲法Ⅰ		秋学期集中	4単位	前 田 徹 生																								
〔講義概要・学習目標〕 憲法Ⅰは、憲法学の分野のなかでもとりわけ「基本的人権」を中心とし、日本国憲法に体现されている現代立憲主義の基本原則を明らかにする。国家試験の受講者にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を前提に、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに、今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法的視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。	〔講義計画〕 <table><tr><td>1) 日本国憲法成立史</td><td>13) 表現の自由</td></tr><tr><td>2) 基本的人権の享有主体</td><td>14) 集会・結社の自由</td></tr><tr><td>3) 基本的人権の私人間効力</td><td>15) 被疑者・被告人の権利</td></tr><tr><td>4) 基本的人権と公共の福祉</td><td>16) 職業選択の自由</td></tr><tr><td>5) 特別な法律関係における人権</td><td>17) 財産権の保障</td></tr><tr><td>6) 法の下での平等</td><td>18) 生存権</td></tr><tr><td>7) 個人の尊重と幸福追求権</td><td>19) 教育を受ける権利</td></tr><tr><td>8) プライバシーの権利</td><td>20) 労働基本権</td></tr><tr><td>9) 自己決定権</td><td>21) 国務請求権</td></tr><tr><td>10) 思想・良心の自由</td><td>22) 参政権</td></tr><tr><td>11) 信教の自由・政教分離の原則</td><td></td></tr><tr><td>12) 学問の自由</td><td></td></tr></table>				1) 日本国憲法成立史	13) 表現の自由	2) 基本的人権の享有主体	14) 集会・結社の自由	3) 基本的人権の私人間効力	15) 被疑者・被告人の権利	4) 基本的人権と公共の福祉	16) 職業選択の自由	5) 特別な法律関係における人権	17) 財産権の保障	6) 法の下での平等	18) 生存権	7) 個人の尊重と幸福追求権	19) 教育を受ける権利	8) プライバシーの権利	20) 労働基本権	9) 自己決定権	21) 国務請求権	10) 思想・良心の自由	22) 参政権	11) 信教の自由・政教分離の原則		12) 学問の自由	
1) 日本国憲法成立史	13) 表現の自由																											
2) 基本的人権の享有主体	14) 集会・結社の自由																											
3) 基本的人権の私人間効力	15) 被疑者・被告人の権利																											
4) 基本的人権と公共の福祉	16) 職業選択の自由																											
5) 特別な法律関係における人権	17) 財産権の保障																											
6) 法の下での平等	18) 生存権																											
7) 個人の尊重と幸福追求権	19) 教育を受ける権利																											
8) プライバシーの権利	20) 労働基本権																											
9) 自己決定権	21) 国務請求権																											
10) 思想・良心の自由	22) 参政権																											
11) 信教の自由・政教分離の原則																												
12) 学問の自由																												
〔成績評価の方法〕 定期試験および時々の出席点で判断する。	〔参考文献〕 佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房 樋口陽一『憲法』創文社 佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院 野中・中村・高橋・高見『憲法Ⅰ』有斐閣																											
〔教科書〕 芦部信喜「憲法（新版）補て訂版」岩波書店																												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
民 法 I		秋学期 集中	4 単位	林 錫 璋
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
民法の全体像を俯瞰した上で、民法の意義および民法の指導原理に移り、民法第一編の総則として、権利の主体（自然人、法人）、権利の変動原因（法律行為、時効）などの規則について、通説・判例の立場から、その基本構造と各種の法的概念及び制度を論述し、実務・理論・立法の動向にも触れ、これを解説し、民法の基本理念及び共通原則、所定の諸制度に対する正確な理解を期するとともに、これをもって民法全体の学習への導入とする。		1、民法の位置づけ 3、民法の基本原則とその修正 5、権利能力と行為能力 7、団体と法人格 9、権利の客体 1 1、法律行為の有効要件 1 3、心理留保と虚偽表示 1 5、詐欺と強迫 1 7、本人と代理人の関係 1 9、表見代理 2 1、条件と期限 2、民法の法源 4、民法の適用のしくみと解釈 6、成年後見制度 8、法人の設立と解散 1 0、法律行為の解釈 1 2、意思の欠缺と意思の瑕疵 1 4、錯誤 1 6、代理のしくみとはたらき 1 8、代理人と相手方との関係 2 0、無効と取消 2 2、時効制度		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席、小テスト、レポート及び期末試験による総合評価		谷口知平・甲斐道太郎編『新現代民法入門』（法律文化社） コンサイス 判例六法（三省堂）		
[教科書]				
安井 宏他著『ブリエール民法 1 民法入門・総則』（法律文化社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅰ a	0 1	通 期	2 単位	高 田 里恵子
ドイツ語Ⅰ b	0 1	通 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
このクラスは、Ⅰ a・Ⅰ bの両方を高田が担当する。 語学の習得のためには地味な努力が必要である。楽しい「会話」をするためには、まずは単語や文法を暗記しなくてはならない。暗記と繰り返し練習は語学の基礎である。楽しいだけでは語学は身につかない。この点は、じゅうぶん覚悟しておくこと！ 一年間でドイツ語の文法を一通り学ぶというのが目標である。予習の必要はないが、授業についていくためには復習は欠かせない。地道な努力が報われるような授業にしていきたい。		1. ドイツ語の発音 ドイツ語で言ってみよう 2. 動詞の人称変化 3. 冠詞と冠詞類 4. 前置詞 5. 助動詞 6. 分離動詞・再帰動詞・非人称動詞 7. 時制 8. 関係代名詞 9. 受動態 10. 接続法		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
前期と後期の最後に試験を行なう。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正に評価できるように、授業のやり方や内容を工夫するつもりである。		授業中に指示する。		
〔教科書〕				
近藤弘 他著				
Dialogードイツ語へのキックオフ				
郁文堂刊 2400円（予定価格）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅰa	02	通 期	2 単位	竹 田 和 子
【講義概要・学習目標】 この授業では、ドイツ語の基本的な規則を学ぶ。基本的な表現を一つずつマスターしながらドイツ語の輪郭をつかみ、一年間で簡単なドイツ語表現ができるようになることを目指す。教科書では重要な項目が繰り返し説明されているので、それぞれの文法規則が着実に身に付けられるようになっていく。 授業では口頭練習をよく行うので、練習へは積極的に参加すること。外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要である。しかしその成果は決して小さなものではない。EU内で最も使用人口が多いドイツ語をぜひ体得してほしい。		【講義計画】 1 動詞の現在人称変化 2 名詞と冠詞 3 不規則変化動詞と命令形 4 冠詞類と人称代名詞 5 前置詞と接続詞 6 話法の助動詞 7 分離動詞・再帰動詞・再帰代名詞 8 動詞の三基本形と過去 9 未来形と完了形 10 関係代名詞 11 受動・zu 不定詞		
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。		【参考文献】		
【教科書】 著者：長谷川つとむ、川嶋正幸、中村憲治、河田一郎 書名：らくらくドイツ文法 発行所：三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅰb	02	通 期	2単位	村 田 佳 隆
	05	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
ドイツ語学習の土台をつくることがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。		1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はⅠa（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること				
[教科書]				
西村、Petrik 『行ってらっしゃい』 朝日出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅰa	03	通 期	2単位	田 中 秀 穂
	05	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。 ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での統語的役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな規則があり、覚えなくてはならないことも少なくはない。しかし、積極的に授業に取り組み反復練習を心がけ、ドイツ語の表現のしかたを確実に身につけてもらいたい。		0. アルファベット、発音 1. 動詞の現在人称変化 2. 名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞 3. 不規則動詞、副文 4. 定冠詞類と不定冠詞類 5. 助動詞 6. 分離動詞、zu 不定詞句 7. 過去人称変化、現在完了形 8. 前置詞、再帰動詞 9. 形容詞 10. 比較級と最上級、命令形 11. 関係代名詞 12. 受動態 13, 14. 接続法		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。 詳細は、Ⅰa（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。				
[教科書]				
著 者： 大岩 信太郎				
書 名： 新正書法による 快速ドイツ文法（14課）				
発行所： 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅰb	03	通 期	2単位	竹 田 和 子
〔講義概要・学習目標〕 この授業では、少しずつ段階を踏みながら自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指す。対話をしながら表現を覚え、また文法規則を応用できるようにする。授業では話すことに重点を置くが、聞き取り練習や、内容を理解するために、和訳が必要なこともある。 授業では口頭練習をよく行うので、練習へは積極的に参加すること。外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要である。しかしその成果は決して小さなものではない。EU内で最も使用人口が多いドイツ語をぜひ体得してほしい。	〔講義計画〕 1 動詞 2 名詞・冠詞(1格,4格) 3 複数形・不規則動詞 4 前置詞1・分離動詞 5 話法の助動詞 6 現在完了形 7 過去形・接続詞 8 人称代名詞(3格,4格) 9 前置詞2・過去形 10 再帰代名詞 11 受動文・関係文・zu不定形			
〔成績評価の方法〕 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 著者：筑和正格、江口豊、橋本聡 書名：ドイチュ・インターアクティブ Ver.2 発行所：郁文堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅰa	04	通 期	2単位	山 崎 充 彦
〔講義概要・学習目標〕 この講義では、ドイツ語の基礎的な文法を時間をかけて説明して行く。 ドイツ語の構造を、英語ほかのヨーロッパ語との比較という点に留意しつつ講義する。英語と同じ語族に属するドイツ語を学ぶことで、英語の構造の理解がより深くなるであろう。 ハードな水準は求めないが、授業中に説明した文法事柄の復習につとめて欲しい。	〔講義計画〕 授業内容や進度は、原則としてテキスト通り			
〔成績評価の方法〕 前期と後期の試験による。成績評価はⅠaとⅠbの担当者が相談し、総合的に判断して決められる。 詳細はプリント「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」を参照すること。	〔参考文献〕 独和辞典必携 原則として、どの辞書でもよいが、『コンサイス』など三省堂の辞書は、その記載内容から、初学者には余りお薦めできない。			
〔教科書〕 <i>Leichte Grammatik,</i> 長谷川・川嶋・中村・河田著、 『らくらくドイツ文法』 三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	0 4	通 期	2 単位	坂 昌 樹
〔講義概要・学習目標〕 この授業の重点は、反復練習と記憶にあります。はじめて学ぶドイツ語のもっとも大切な規則を、くり返し練習することで、しっかり身につけてください。そのために復習をかねて小テストを行うこともあります。 教科書には、文法にかなする学習を減らし、ドイツ語会話も試みられるものを選びました。ドイツの風土や文化の紹介も、ゆとりのある限り試みるつもりです。 授業中にわからないことがあったら、単語の意味から文の構造まで、何でもかまいませんからきいてください。ドイツ語の基本で覚えなければいけないことは、できるだけ授業中に覚えてしまいましょう。それができない時には、復習をここらけてください。	〔講義計画〕 テキストに沿って進めていきます。			
〔成績評価の方法〕 毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また平常点も考慮します。全体の成績評価は、a を担当する教師とb を担当する教師が相談し総合的に決定します。詳細は、I a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照してください。	〔参考文献〕 独和辞典を毎回持参してください。			
〔教科書〕 西村佑子、Rudolf Petrik, "Gute Reise" (『行ってらっしゃい!』)、朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	0 1 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	エディ バン ドロム Eddy VAN DROM
〔講義概要・学習目標〕 フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。 最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動することです。たくさんの異なる相手と共同作業をすることによって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。 ことがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。 これからの1年間、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につけやすいものです。気楽に、愉快地にやってください。	〔講義計画〕 1. 自分について、人について話す 2. 生活のしかた、時間の使い方を話す 3. 空間的に位置付けながら話す 4. これまでにしたことを話す 5. 描写する、好く嫌いを言う、欲しいものを言う 6. 頼む、誘う、伝える			
〔成績評価の方法〕 1. 評価方法は前後の試験（1/3+1/3）及び 出席／平常点（1/3）の総合評価とする 2. 小テストの成績を総合的に評価する	〔参考文献〕			
〔教科書〕 1. 授業時は仏日辞書を必携のこと (例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001) 2. フランス語2001、話す・読む・書く (livre de l'étudiant) Ishino Koichi, HAKUSUIISHA, 2001 (ISBN4-560-06038-x C3085)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅰb	0 1 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	一ノ瀬 真 美
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、平易で自然なフランス語の会話文を通してフランス語のしくみをきちんと理解し、一年間で基礎をしっかりと身に付けることを目標としています。授業ではテキストを読んで理解するだけでなく、テープを活用して耳と口を使ってもフランス語になじみ、また、学んだ文法事項についてはかならず応用練習をしますので、実習のつもりで積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書はかならず持参すること。		最初の授業ではフランス語の発音練習をおこない、その後は以下に示す文法事項をテキストに出てくる順で習得していきます。 1. 名詞の性と数；不定冠詞；定冠詞；部分冠詞 2. être, avoir, -er動詞, -ir動詞, その他の主な動詞の直説法現在 3. 否定形；命令形；疑問文 4. 形容詞の一致；指示形容詞；疑問形容詞；所有形容詞 5. 前置詞 à, de と定冠詞の結合 6. 補語人称代名詞；人称代名詞強勢形；関係代名詞 7. 代名動詞；非人称動詞 8. 複合過去；半過去；大過去；単純未来；条件法；接続法		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
前期試験と学年末試験で評価します。（学年末試験の方を重視。） なお、外国語の習得には積み重ねが大切なので出席状況の悪いものは試験を受ける資格が無くなります。		辞書については最初の授業で指示します。		
[教科書]				
倉方秀憲、セルジュ・ジュンタ 共著 「アラカルト」（早美出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅰa	03	通 期	2 単位	オリヴィエ ビルマン OlivierBirmann
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
フランス語が使われている社会で積極的にコミュニケーションに参加できる能力の養成を目標にしています。 使用するビデオ教材（『ALPHABETIX』）は、日本人の初心者を対象にしたフランス語コミュニケーション教材です。 なお教科書と連動して、フランス語Ⅰa クラス用の文法、作文、読書の練習のプリントを作ります。		＜前期＞自分について述べる／挨拶する 人を紹介する 買い物をする／評価する どこかへ行く／注文する 物や人を描写する／評価する等々 ＜後期＞買い物をする／提案する／拒否する 自分について述べる／人を紹介する／評価する 提案する／承諾する／拒否する／執拗に求める／評価する 電話する／情報を求める等々		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験		『東京ーパリ、フランス語の旅』、著者：藤田裕二、藤田知子、S.Gillet、駿河台出版社、1997年 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995年 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990年		
〔教科書〕				
『ALPHABETIX』 著者： Patrice Leroy, Adriana Rico-Yokoyama 発行：日仏出版センター 発売元： 三修社、2000年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	03 05	通 期 通 期	2単位 2単位	セシル モレル Cecile Morel
【講義概要・学習目標】 フランス語会話	【講義計画】 生きたフランス語を身に付ける			
【成績評価の方法】 出席、授業参加、試験で決める	【参考文献】			
【教科書】 アルファベティックス 日仏出版センター				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	04	通 期	2単位	本 多 雄一郎
【講義概要・学習目標】 本講義では、フランス語の「話す」「聞く」という面に重点をおき、ビデオ教材を並用しながら、口頭による会話表現を段階的に学んでいく予定です。 ヨーロッパ大陸では、今年から通貨がユーロに切り替えられ、統合がさらに進行していますが、その中心にあるフランス語が、ヨーロッパの共通語として、今後も国際的な重要性を維持し続けていくでしょう。この言語の持つ国際語としての有用性が授業の中で感じられれば幸いです。	【講義計画】 <前期> 4月中は主に発音練習を行ない、それと平行して自己紹介などの会話表現を覚えてフランス語の感覚を養い、ビデオで聞き取りの訓練も行う。 5月以降、フランス語の動詞活用を中心に文法の各項目の説明、そしてひそひそと、会話表現を学んでいく。 <後期> 日本の学生の日常生活を表現したり、過去や未来形に関する様々な表現、構文を学習する。			
【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と平常点で総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 『サリュエ!』 田辺保子他著 駿河台出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	04	通 期	2 単位	本 多 雄一郎
【講義概要・学習目標】 本講義ではフランス語の「話す」「聞く」という面に重点をおき、 ライデオ教材を並用しながら、口頭による会話表現を段階的 に学んでいく予定です。	【講義計画】 <前期> 4月中は主に発音練習を行ない、それと平行して自己 紹介などの会話表現を覚えて、フランス語の感覚を 養い、ライデオで聞きとりの訓練も行なう。 5月以降、フランス語の動詞活用を中心に文法の各項目 の説明、それにひきつづき、会話表現を学んでいく。 <後期> 日本の学生の日常生活を表現したり、過去や未来形による 様々な表現・構文を学習する。			
【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と平常点で総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 『サリュ！』 田辺 保子他著 駿河台出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	05	通 期	2 単位	アニー ヤマサキ
【講義概要・学習目標】 xさいいテキストを言読み、文法・動詞 活用・発音などをチェックした上で 簡単な表現ができるように口頭や 筆記の練習をする。	【講義計画】 クラスで説明します。			
【成績評価の方法】 出席、平常点と期末試験で評価します。 毎回小テストとレポートを行います。	【参考文献】 クラスで言説明します。			
【教科書】 フォリントを使用。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅰa	01 02 03	通 期 通 期 通 期	2単位 2単位 2単位	松 平 マリア
【講義概要・学習目標】		【講義計画】		
この講義の目的はスペイン語の文法と日常会話でよく使われるスペイン語の表現を覚えることです。講義の特徴はスペイン、アルゼンチンとメキシコのスペイン語を比べながら主にスペインのスペイン語を勉強することです。		授業は三つの部分に分けられる：1) 文法の説明；2) 文法のテーマを応用しながら日常会話の表現を覚えること；3) 会話の学習。 学生は勉強した表現を使いながら中間たちと話す。		
【成績評価の方法】		【参考文献】		
評価は春学期と秋学期のそれぞれの試験により、または学生の授業中の参加により行われます。				
【教科書】				
田村美代子 マリア・テレサ・バルデス Miyoko Tamura + María Teresa Valdés スペイン語でなんと言うんですか？ ¿Cómo se dice en español? 出版社 Geirin-Shobo 定価 (本体 1800 円＋税)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅰb	01 02 03	通 期 通 期 通 期	2単位 2単位 2単位	松 平 マリア
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
この講義の目的はスペイン語の文法と日常会話でよく使われるスペイン語の表現を覚えることです。講義の特徴はスペイン、アルゼンチンとメキシコのスペイン語を比べながら主にスペインのスペイン語を勉強することです。		授業は三つの部分に分けられる：1) 文法の説明；2) 文法のテーマを応用しながら日常会話の表現を覚えること；3) 会話の学習。 学生は勉強した表現を使いながら中間たちと話す。		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
評価は春学期と秋学期のそれぞれの試験により、または学生の授業中の参加により行われます。				
〔教科書〕				
田村美代子 マリア・テレサ・バルデス Miyoko Tamura + María Teresa Valdés スペイン語でなんと言うんですか？ ¿Cómo se dice en español? 出版社 Geirin-Shobo 定価（本体 1800 円＋税）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅰa	04	通 期	2 単位	沖 原 雅 美
スペイン語Ⅰb	04	通 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
サッカーワールドカップの年になりました。スペイン語圏（スペイン及び中南米の多くの国々）からの代表チームもアジアに集まります。彼らのことを理解し、話すことができるために、スペイン語を学んでみませんか？（ポルトガル語はスペイン語にきわめて近いので、ブラジルに興味がある人にも勧めます）。 もちろん、スペイン語圏の自慢はサッカーだけではありません。彼らの世界は、時として我々を、日常生活の閉ざされた雰囲気から開放してくれるような広さと奥深さを秘めています。 今年は、作業と会話を中心とした授業を通じ、基礎的なスペイン語を学びましょう。クラスメートと語らいながら進められるような授業をめざします。クラスメートとの出会いを大切にしてください。		スペイン語初級文法のうち、主に直説法現在形を、日常生活の様々な状況にあてはめて学びます。ただし、基礎文法の体系の概略は説明します。 前期 0. スペイン語圏の国々 1. アルファベットと発音 2. 挨拶（名詞の性、連結動詞） 3. 家族の紹介（文の種類） 4. 職業（規則動詞） 5. 街中で（存在動詞） 6. 料理（不規則動詞、与格代名詞） 後期 7. 買い物（指示詞） 8. 健康（対格代名詞） 9. 余暇（副詞の比較） 10. テレビ（形容詞の比較） 11. 1日の行動（再帰表現） 12. 旅行（近接未来）		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
参加態度（出席状況）、宿題などの平常点、定期試験（筆記）より総合的に判定します。なお、これまでの経験から言えることは、受講マナーをわきまえない学生は、結果として評価対象外となります。		『プログレッシブ・スペイン語辞典（第2版）』鼓直他編（小学館）		
〔教科書〕				
『生活@スペイン・スペイン語』大森洋子・廣康好美著（芸林書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	05	通 期	2 単位	カルバホフェリペ
〔講義概要・学習目標〕 この授業では、基礎会話を中心にして、スペイン語の基本的な文法を修得することに重点を置く。従って動詞の直接法の用法や、命令法などは、特に重視しておく必要がある。教科書のスペイン語を録音したカセットテープがあるので、参考として併用されたいと思います。		〔講義計画〕 易しい会話のために、必要な発音と文法を学ぶ。教科書の第一課から第十九課迄履習予定である。主に規則動詞と不規則動詞の直接法である。後半では特に動詞の過去と未来、比較級と最上級等を重点的に行なう。毎回、スペイン語作文の宿題あり。		
〔成績評価の方法〕 試験と授業中の態度・応答・宿題・出席で決める。		〔参考文献〕 授業で紹介		
〔教科書〕 フェリペ・カルバホ『HABLAMOS ESPAÑOL I』大盛堂書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅰb	05	通 期	2単位	カルバホフェリペ
【講義概要・学習目標】 この授業では、基礎会話を中心にして、スペイン語の基本的な文法を修得することに重点を置く。従って動詞の直接法の用法や、命令法などは特に重視しておく必要がある。教課書のスペイン語を録音したカセットテープがあるので、参考として併用せたいと思います。	【講義計画】 易しい会話のために、必要な発音と文法を学ぶ。教課書の第一課から第十九課迄履習予定である。主に規則動詞と不規則動詞の直接法である。後半では特に動詞の過去と未来・比較級と最上級等を重点的に行なう。毎回、スペイン語作文の宿題あり。			
【成績評価の方法】 試験と授業中の態度・応答・宿題・出席で決める。	【参考文献】 授業で紹介			
【教科書】 フェリペ・カルバホ『HABLAMOS ESPAÑOLⅠ』 大盛堂書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅰ a	0 1	通 期	2 単位	武 田 好
イタリア語Ⅰ a	0 2	通 期	2 単位	
イタリア語Ⅰ b	0 1	通 期	2 単位	
イタリア語Ⅰ b	0 2	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】		【講義計画】		
一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、「文法力」と「話す力、聞く力」とが常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとるため、学生諸君自身の意見発表や自己の表現力を問う場面が多くなると考えてほしい。イタリア語の構造を理解しながら、その場で人間相手に用いることで、より一層の力が定着を図る。また同時に、その言葉が使われている状況を考えることによって「イタリア文化」の輪郭なりとも学習していこう。		【前期】自分のことを話す 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 【後期】相手にたずねる 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 過去時制の働き		
【成績評価の方法】		【参考文献】		
臨時試験、小テスト、及び授業中の演習結果から受講生各個の能力を総合的に判断して決定する。		授業には必ず小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。		
【教科書】				
武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I b	0 3 0 3	通 期 通 期	2 単位 2 単位	和 栗 珠 里
〔講義概要・学習目標〕 イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に平行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。		〔講義計画〕 【前期】 自分のことを話す 1. イタリア語の発音、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 【後期】 相手にたずねる 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 過去の表現（近過去・半過去） 4. 再帰動詞		
〔成績評価の方法〕 平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行う。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。		〔参考文献〕 授業には、小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。		
〔教科書〕 武田好・横山千里著『Andiamo in Italia!（アンディアーモ・イン・イタリア）』 南欧図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I a イタリア語 I b イタリア語 I b	0 4 0 5 0 4 0 5	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	曙 絵里
〔講義概要・学習目標〕 イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の進行は、なるべく本学のイタリア語 I の授業担当者と、足並みを揃える予定である。		〔講義計画〕 【前期】 自分のことを話す 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 【後期】 相手にたずねる 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き		
〔成績評価の方法〕 平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定する。		〔参考文献〕 授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。		
〔教科書〕 武田好・横山千里著『Andiamo in Italia!（アンディアーモ・イン・イタリア）』 南欧図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I a		通 期	2 単位	国 松 夏 紀
〔講義概要・学習目標〕 これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？ おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。 そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。		〔講義計画〕 教科書は全部で25課あります。単純に計算すると、1回の講義につき少なくとも1課、春学期13課、秋学期12課で1冊修了することになります。 しかし、なかなか計算通りいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、重要なところはじっくりと、とばせるところはとばしていきます。 一つだけ、予め注意しておきたいのは、教科書には書き込みをしないこと。B5判の余白の多い教科書で、つい「読みカナ」をふったり、練習問題の解答を書き込んだりしたくなるのですが、それはノートにすること。教科書をきれいなままにしておき、常に「練習」できるようにしておくことも、意外と語学上達早道なのです。		
〔成績評価の方法〕 出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、春学期末と秋学期末の試験で総合的に評価します。		〔参考文献〕 辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。 その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。		
〔教科書〕 黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』 大学書林刊				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I b		通 期	2 単位	杉 野 ゆ り
〔講義概要・学習目標〕 ロシア語はロシア連邦に住む約1億5千万人の言語です。大阪から一番近い極東の町ウラジオストクは飛行機で約2時間のところにあります。この近くで遠い隣国ロシアを理解する第一歩としてロシア語の勉強を始めましょう。 チャレンジ精神のある学生の参加を期待します。 ロシア語はやりがいと味わいのある言語です。みなさんが知っているラテン文字とは違ったロシア文字の形を楽しみながら、発音を覚え、次第にロシア語文法の奥深く入っていきましょう。積極的に授業に参加して、五感をフルに使いながら、根気強く授業についてきてください。		〔講義計画〕 最初に、ロシア文字とその読み方を学びます。 教科書は10課から成りますので、前期で5課、後期で残り5課の予定です。 教科書に書かれているのは初級文法の中でもっとも基本的な事柄です。予習復習をしっかりとしながらすべて覚えるつもりで勉強してください。		
〔成績評価の方法〕 平常点（出席回数、小テスト）と前後期の定期試験の点数によって評価します。		〔参考文献〕 露和辞典必携		
〔教科書〕 諫早勇一、服部文昭、大平陽一著 「セメスターのロシア語」（白水社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅰ a 中国語Ⅰ b	0 1 0 1	通 期 通 期	2 単位 2 単位	林 宏作
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
中国語の誤報と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟及び基本文型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意してください。		＜前期＞ ①現代中国語概説 ②漢語ローマ字 ③拼音と四聲 ④教科書第1課から第10課までの講読 ＜後期＞ 教科書第11課から第20課までの講読		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席率と前・後期の試験による。				
[教科書]				
奥水優（監修）『基礎中国語会話』改訂版、東方書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅰa 中国語Ⅰa 中国語Ⅰb 中国語Ⅰb	02 03 02 03	通 期 通 期 通 期 通 期	2単位 2単位 2単位 2単位	杢 野 京 汪 暁
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。拼音（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろいろな形でリピートされている。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。 また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。		<前期> 導入 発音段階 ①拼音（ローマ字による発音表記） ② 四声（中国語のイントネーション） ③ 総合練習 本文の勉強 第1課～第6課 2コマ一課のペースで行う （文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習） <後期> 本文 第7課～第16課 前期と同じ		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
定期試験、平常点、出席などによる総合評価。		「デイリーコンサイス中日辞典」 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘〔共編〕 （三省堂 1998）		
〔教科書〕				
「一年生のころ」（ビデオで学ぶ中国語 改訂版） （CD付き） （朝日出版社）				

初
修
I
～02

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a 中国語 I a 中国語 I b 中国語 I b	04 05 04 05	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	キュウ バイ 邱 梅
〔講義概要・学習目標〕 中国語の入門授業として、発音と基礎会話に重点を置く と同時に、それに関連する基礎的な文法と中国の事情も紹介 する。		〔講義計画〕 前期において、正しい発音とやさしい会話能力を養う。 前期の予定：「中国語ははじめの一步」 後期において、前期の基礎を元にして、続いて会話のレベル を高めるとともに、日常生活に必要な「聞く」、「読む」、「書く」 の総合的な能力も養うために努力する。 後期の予定：「中国語さらなる一步」		
〔成績評価の方法〕 出席、小テスト、期末試験から総合的に評価する。		〔参考文献〕 辞書を持参すること		
〔教科書〕 《新版》 「中国語はじめの一步」 「中国語さらなる一步」 竹島 金吾 監修 尹景春・竹島 毅 著 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	06 07	通 期 通 期	2 単位 2 単位	サ コウ 左 虹
〔講義概要・学習目標〕 中国語を勉強する人にとって最も大切なのは発音である。 語学の学習は一般の授業と違い、単なる講義を聴くだけでは なく、真似したり、考えたり、口にしたたりする訓練が必要 とされる。一年間の学習を通じてローマ字方式中国語の 発音を習得し、基礎となる文型や語法を学び、基本技能の 「聞く」「話す」「読む」「書く」といったバランスのとれた表現 力を身につけようと講義を進めたいと考えている。		〔講義計画〕 前期： 発音編：1～7 本編：第1課～第8課 後期： 本編：第9課～第20課		
〔成績評価の方法〕 前後期定期試験のほか、出席、小テストなどを平常成績 として総合評価する。		〔参考文献〕 「フレッシュ中国語」 白水社など		
〔教科書〕 [中国語でコミュニケーション] ・ことばのしくみから楽しい会話へ・ 山下輝彦 著 KINSEIDO				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅰb	06 07	通 期 通 期	2単位 2単位	サ 左 コウ 虹
〔講義概要・学習目標〕 中国語を勉強する人にとって最も大切なのは発音である。語学の学習は一般の授業と違い、単なる講義を聴くだけでなく、真似したり、考えたり、口にしたりする訓練が必要とされる。一年間の学習を通じてローマ字方式中国語の発音を習得し、基礎となる文型や語法を学び、基本技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」といったバランスのとれた表現力を身につけようと講義を進めたいと考えている。		〔講義計画〕 前期： 第1課～第9課 後期： 第10課～第22課		
〔成績評価の方法〕 前後期定期試験のほか、出席、小テストなどを平常成績として総合評価する。		〔参考文献〕 「フレッシュ中国語」 白水社など		
〔教科書〕 中国語初級テキスト 「北京の風」改訂版 木村英樹・小野秀樹・陳 蓉 著 白帝社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅰ a	08	通 期	2単位	ジョー コク ギョク 徐 国 玉
中国語Ⅰ a	09	通 期	2単位	
中国語Ⅰ b	08	通 期	2単位	
中国語Ⅰ b	09	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
この授業では聞く、話すという能力に重点を置きます。中国語のピンインから始めて、基本的な語彙や文法事項を習得して行きます。 一年間で中国語学習の堅い土台を作ることがこの授業の目標です。		【前期】第 1 課～第 10 課 【後期】第 11 課～第 22 課		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席状況、授業態度、平素の小テストの評点または前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。		『精選日中・日中辞典』（東方書店）		
[教科書]				
『基礎レッスン中国語』（徐国玉、山田忠司著 同友社出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅰ a	1 0	通 期	2 単位	チン セイコ 陳 靖 国
中国語Ⅰ a	1 1	通 期	2 単位	
中国語Ⅰ b	1 0	通 期	2 単位	
中国語Ⅰ b	1 1	通 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
概要：《話す中国語・北京篇》の著者曰く、このテキストの書かれた目的は、中国へ行ったら着いたその日から使える... と。実際に立つ言語学習が狙いである。 この授業を通して、実用的な中国語を覚えましょう。きれいな発音、的確な表現、そして、複雑な専門用語を一切省いた洗練された文法。 目標：中国語を覚える中で、中国を知る。		＜前期＞ 概説：中国・日本/中国語・日本語の異同 発音 1～4 課 ・ ピンイン(アルファベットによる発音表記) ・ 四声(中国語のイントネーション) ・ 基礎発音の練習 本文講読・会話の練習 第5 課～ ＜後期＞ 前期の続き		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
定期試験と併せて、授業中練習、平常点、出席等による総合評価。		『中日・日中辞典』を一冊用意すること 出版社の指定なし		
〔教科書〕				
董 燕 / 遠藤光曉 著 《話す中国語・北京篇Ⅰ》 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅰ a 中国語Ⅰ b	1 2 1 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	カ イ 何 為
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
中国語学習の土台をつくることがこの授業の目標である。中国語の発音の基礎、何と言っても母音、子音のマスターが一番重要だ。入門の段階は「拼音」（中国式ローマ字つづりの発音）と「四声」（漢字の四つの声調）の修得を目指し、この段階の要求は繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、やさしい日常会話と平易な中国語の文章を修得、一年の勉強を通して、短文の理解・対話・作文ができるように努力をして欲しい。		原則的に半期はテキストの半分まで進み、一年間で一冊を修了する。		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
試験の成績と平常点で総合評価する。		「中国語辞書」 白帝社		
〔教科書〕				
改訂版「一年生のころ」 相原茂 陳淑梅 飯田敦子著 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I a		通 期	2 単位	チョン 田 ヲンヒ 星 姫
〔講義概要・学習目標〕 大学で始めて朝鮮語を学ぶ人のための入門クラス。現代韓国語の文字と発音の学習から始める。「～です・～ます」という丁寧な表現、英語の「be」動詞に相当する指定詞、数詞、尊敬補助語幹の着脱、時制の変換などの必要最小限の文法事項を学びながらコミュニケーションの基礎をつくる。	〔講義計画〕 1 文字と発音 基本母音 6 ハムニダ体（肯定と否定） 平音 7 助詞 パッチム 8 敬語 激音・濃音 9 ヘヨ体 複合母音 10 過去形 発音のルール 11 指示・アドバイス 2 指定詞（肯定と否定） 12 意志未来 3 疑問詞 13 誘いの言い方 4 存在詞 14 希望の意を表す言い方 5 数詞 15 敬語命令など			
〔成績評価の方法〕 試験、出席、授業中の態度、課題への取り組みなどを総合的に評価する。	〔参考文献〕 『朝鮮語辞典』油谷幸利他編（小学館）			
〔教科書〕 『聴いて覚える初級朝鮮語』河村光雅・田星姫共著（白水社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I b		通 期	2 単位	青 野 正 明
〔講義概要・学習目標〕 この授業は朝鮮語の入門である。文字・発音や基礎的な文法を学び、簡単な文章の読解へと進みたい。 「朝鮮語 I b」では、文法と簡単な読み書きに重点を置いて、現代の韓国で使われている言葉を中心に学習する。北朝鮮で使われている言葉で韓国と異なるものについても、適宜紹介していく予定である。 隣国の言葉を全く知らないということは、よくよく考えてみれば奇妙なことではないか。今、私たちが朝鮮語を学ぶことは、自分たちの生き方としても非常に意義のあることだといえる。1年間を終えた段階では、基礎的な会話ができ、また簡単な文章も読めるだろう。	〔講義計画〕 前期：第1部 第1～6課 第2部 第1～2課 後期：第2部 第3～10課			
〔成績評価の方法〕 出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。	〔参考文献〕 辞書は授業で紹介する。			
〔教科書〕 金東漢・張銀英『韓国語レッスン 初級 I』スリーエーネットワーク、1999年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語Ⅰa		通 期	2 単位	北 野 正 徳
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
この授業では基礎的なインドネシア語の習得を目的にしている。その内容は、発音、語彙習得、文法、そして簡単な会話や作文を含んでいる。具体的には、通年の授業を通じて、一冊の教科書(インドネシア語Ⅰbと共通のもの)を出来るだけ丁寧に学習することを計画している。従って、受講者は、Ⅰa とⅠb 双方の授業をできるだけ途切れることなく出席することが望まれている。授業の内容自体は、特に複雑ではなく、大量の予習・復習も必要ではないが、クラス全体の授業進行を円滑にするために、受講者は、できるだけ継続して授業に参加して、常に授業内容に把握していることが望まれている。		一冊の教科書を一年間かけてできるだけ丁寧に学習してゆく。前期は、発音、語彙習得、簡単な文法・構文の知識の習得が主である。後期には、より複雑な文法を学んでゆく。とりわけ、後期に継続して出席することが大切である。		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席、授業中の参加態度、各期末の書き取りなどを総合評価。なかでも、継続して出席して授業中の練習に積極的に加わることを重視する。授業中にも練習を行うので、途切れ途切れに出席すると、他の出席者の迷惑になる。できるだけ継続して出席して授業の進行が充実するように期待されている。				
[教科書]				
舟田京子『やさしい初歩のインドネシア語』(南雲堂)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語Ⅰb		通 期	2 単位	北 野 正 徳
【講義概要・学習目標】		【講義計画】		
この授業では基礎的なインドネシア語の習得を目的にしている。その内容は、発音、語彙習得、文法、そして簡単な会話や作文を含んでいる。具体的には、通年の授業を通じて、一冊の教科書（インドネシア語Ⅰa と共通のもの）を出来るだけ丁寧に学習することを計画している。従って、受講者は、Ⅰa とⅠb 双方の授業をできるだけ途切れることなく出席することが望まれている。授業の内容自体は、特に複雑ではなく、大量の予習・復習も必要ではないが、クラス全体の授業進行を円滑にするために、受講者は、できるだけ継続して授業に参加して、常に授業内容に把握していることが望まれている。		一冊の教科書を一年間かけてできるだけ丁寧に学習してゆく。前期は、発音、語彙習得、簡単な文法・構文の知識の習得が主である。後期には、より複雑な文法を学んでゆく。とりわけ、後期に継続して出席することが大切である。		
【成績評価の方法】		【参考文献】		
出席、授業中の参加態度、各期末の書き取りなどを総合評価。なかでも、継続して出席して授業中の練習に積極的に加わることを重視する。授業中にも練習を行うので、途切れ途切れに出席すると、他の出席者の迷惑になる。できるだけ継続して出席して授業の進行が充実するように期待されている。				
【教科書】				
舟田京子『やさしい初歩のインドネシア語』（南雲堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I a		通 期	2 単位	藤 原 健
〔講義概要・学習目標〕 大学に入って、これから学部の留学生として生活していくことになるわけだが、何かにつけていやでも日本語の実力不足を痛感していくのではないだろうか。 日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、大学生活に慣れたり、専門の科目の勉強などに忙しかったりで、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなるのではないかと思う。さらに、今までの初級や中級の「日本語の教科書」に出てきた日本語と、大学の授業で使われる日本語の語彙や文体の差に驚くことになると思う。 この授業では、学部の講義で用いられるテキストの文体に慣れるため、心理学・数学・衛生学・生物学などの専門書のばっすいを丁寧に読み進め、内容の把握に努める。また、内容を要約する練習も行う。	〔講義計画〕 <読解(精読)練習> (1)各専門分野の文章を読む ・語彙や文型を考える ・内容の把握をする ・シートの設問に答える (2)課によって、要約をする			
〔成績評価の方法〕 出席を重視し(年授業回数の3分の2以上が必要)、評価は進度に応じて年に数回の平常試験(4回程度)で行う。 詳しくは、授業初回に説明する。	〔参考文献〕 山本一枝・田山のり子・坂本恵(共著)『はじめての専門書』(凡人社)			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I b		通 期	2 単位	吉 岡 美 穂
〔講義概要・学習目標〕 日本語の学習はコミュニケーションのための重要な道具となるが、それだけでは日本の文化を理解することはできない。 このクラスでは、言語のしくみと働きに焦点をあて、さまざまな角度から「ことばと文化」のおもしろさを学んでいく。	〔講義計画〕 異文化に関する記事や文献を読み、理解し、エクササイズを用いて異文化理解を深めていく。			
〔成績評価の方法〕 出席・テスト・提出物・授業への参加度、態度。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 資料は教員が準備する。				

